

福岡市環境教育・学習計画推進協議会 議事録【要旨】

■日 時：平成29年8月25日（金）14：00～16：00

■場 所：アクロス福岡6階 会議室606

■議事1：福岡市の環境教育・学習関連施策について（平成28年度）

「福岡市環境教育・学習計画（第三次）」で定めている9つの基本的方向に基づいて、平成28年度の福岡市の施策の取組状況等について報告し、当該協議会委員からの意見を聴取。

<委員からの主な意見>

- 「環境教育・学習支援カタログ」はメニューが豊富で分かりやすい。学校との連結がスムーズという印象を受けた。
- 今年3月に学習指導要領が変わって、「主体的・対話的で深い学び」ということが文科省から打ち出されている。「環境教育・学習支援カタログ」のメニューをアクティブラーニングに適合させて推進したり、全体的な目的の中に、子ども達の主体性・対話性など深い学びと繋がるようにすると良い。
- 学校現場の中でも環境教育などを通じて、子ども達が「体験することで議論できるようになる」、また、「普段見ることが出来ないものを見ることで自分自身の考えを持つようになる。」というようところが、「環境教育・学習支援カタログ」の中のプログラムの良いところではないかと思うので、このプログラムを通して、学びそのものも深まるということをしっかりと発信していけば、活動も広がっていくのではないかと思われる。
- 学校支援として、パッカー車が各校に来て体験する環境学習が行われており、この学習を通して、子ども達に分別の意識が高まっていることから、非常に効果的な学習であると感じている。
- 本当に必要な情報が伝わっていないかもしれない。例えばクーラーは点けたり消したりすることが節約になると思い込んでいる人が多いが、実際には点けたままにしておく方がエネルギーの節約になる。お年寄りには、「無理をしないで弱めの冷房や除湿を点けたままにしておいた方が、健康に良く、節約にもなりますよ。」ということを教えてあげた方がいい。
- これまでの経験から、環境教育をする場合、指導する側と指導を受ける側の年齢が近い方が相互作用があると感じている。
- 小学校、幼稚園の時期に色んな体験を通して、環境を見つめ、考える“きっかけ”を作っていくことが大切だと思う。学校現場では、時間をたっぷり取る事は出来ないため、1年生から6年生まで、時間をかけて少しずつそのような芽を育てていかなければならない。

- 学校の先生達にテーマ探しの要領や学校の地域特性は何かを伝えることが重要かと思う。

■議事2：成果指標の達成状況について

「福岡市環境教育・学習計画（第三次）」の成果指標について報告し、当該協議会委員からの意見を聴取。

<委員からの主な意見>

- 「生物多様性」については、言葉が難しい。例えば、子ども達への環境教育・学習を進める際、「無駄な生き物はいない。」ということ伝えていますが、公民館の花植え活動で、「雑草は邪魔な草なので抜きなさい。」と教わるようで、子ども達が混乱しているよう。地域・学校との認識の摺合せが行われていくと、「生物多様性」に対する理解度も上がってくると思う。
- 「生物多様性」については、そもそもの言葉が難しいことが影響している。また、この設問は2段階で聞いており、「理解して」、そして「行動している」と聞いていることも影響していると思う。
- 実際に環境活動している人達をしばしば目にする。アンケートは文字だけのやりとりであるから、この結果が全てを表せているとは思えない。また、「生物多様性」に対する理解度や「雑草」に対する認識などについては、地道な取組みを継続し、少しずつ意識が変わっていくよう働きかけることが必要かと思う。
- 「古紙のリサイクル」や「買い物袋の持参」など個人で取り組む環境活動は実施率が高いが、環境活動への参加は低い。環境活動に参加することでどのような効果があるかが伝わっていないのではないかと思う。
- 「環境美化活動」や「リサイクル活動」などの環境活動は、多くの公民館・自治協議会・学校などで実施されているが、市民アンケートで参加率が低いという結果が出ている。地域の活動を知ってもらい、広げていく事を考えていくべきかと思う。